

石油プラントのメンテで貢献、再エネ事業へのシフトも注力 キッカワ 代表取締役 吉川青良氏

石油や化学プラントのメンテナンス事業などを手掛けるキッカワ（本社：岡山県倉敷市）は、近年は再生可能エネルギー関連事業に注力している。世界的な脱炭素化の流れをうけ同社が長く実績を持つ石油業界では今後の需要減なども見込まれるが、こうした中で同社はグループ会社を通じ木質バイオマスガス化発電装置の販売や、太陽光発電の施工・運営なども手掛け事業分野を広げる。3月中旬に東京ビッグサイトで開催されたスマートエネルギーWeekでは、バイオマス展にブースを構えバイオマス発電装置の紹介も行った。キッカワの代表取締役の吉川青良氏は「世の中の必要なことに果敢に挑戦していく」と語る。

一御社の沿革や強みを教えてください

吉川 当社は1967年に設立された。先代より水島コンビナートでのタンクの清浄やクレーンのリース事業などを手掛け、私が会社を受け継いでからは、水島だけにとどまらず、四日市や川崎、千葉など各地のコンビナートにも活動エリアを広げ、それらの地域におけるプラントのメンテナンス事業を展開し拡大していった。

当社でもっとも得意としているのが、栈橋に配備されているローディングアームのメンテナンス。ローディングアームは、海外から輸入したLNGや原油、また国内外で精製されたガソリン、LPG、ナフサ、硫黄やガスなどを、船から陸上のタンク、あるいはタンクから船に輸送するときに用いられる。こうしたローディングアーム、またそれらに付随する配管やタンク、モーターなどの装置についてもメンテナンスの仕事年全国で請け負っている。さらに当社では、米軍基地内にあるローディングアームのメンテナンス業務も手掛けており、佐世保や岩国、横須賀といった各地での実績がある。

こうした事業を展開していく中で、プラントにあるポンプやモーターなど回転機械の分解や点検、オーバーホールのサービスへのニーズも大きいことが分かり、1995年にはこのサービスを手掛けるアクシアも立ち上げた。アクシアでは工場に回転機械を運びそのオーバーホールを行う。当初は水島エリアを中心に事業展開してきたが、事業拡大に向け昨年には鹿島コンビナートにも工場を建設した。

一脱炭素化の流れなど、石油業界には今後の局面が厳しくなっていくことが想定されます

吉川 当社では石油関連設備のメンテナンス事業に長く取り組んでいるが、1年ほど前からとくに化学プラントやバイオマスなどの再エネ分野に焦点をあて、それらにどんどん取り組みをシフトしていこうと呼び掛けている。一方で、石油に関しても必要なものは引き続き存在するため、その設備のメンテナンスをしっかりとしつつ、化学会社のプラント、また再エネ発電設備の建設・メンテナンス案件をしっかりと獲得していくとともに、自社としても環境配慮型の会社に変容していこうと、スタッフに話し積極的に営業活動を行っている。



吉川青良氏

一各種再エネ事業の具体的な今後の展望は

吉川 キッカワの環境部において、メガソーラーを中心とした太陽光発電設備の施工を手掛け、他社向けの施工ほか自社でもFIT売電用の太陽光発電所を各地で運営している。また最近では自家消費型の太陽光発電設備に対する工事の相談も、当社に持ちかけられ始めている。またグループ会社のK S バイオマスエナジーでは、ドイツ製の木質バイオマスガス化発電装置などの販売も行っている。さらに、キッカワでは地熱発電所での配管の交換工事や、風力発電設備のメンテナンス業務にも実績がある。

日本では国内の風力発電機のメーカーがいなくなってしまうが、こうした中でも当社では大手の建設会社に対して、風力発電機のメンテナンス業務なども対応が可能であると呼び掛け、現在営業活動を行っている。水素についても製造プラントの配管工事やタンクのメンテナンスなどを行えるため、これについての営業活動と提案も行っている。このほかにもグループ会社のS E アミューズメントでは、欧州製のアスレチック、アトラクション施設の建設、さらにPFI事業による運営にも携わっており、「世の中の必要なことに果敢に挑戦する」という姿勢でK'sグループ（キッカワをはじめとするグループ会社）は事業を展開している。